

News & Scope Handai Hospital

阪大病院ニュース

第8号

発行 / 大阪大学医学部附属病院広報委員会 (総務課)
http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp

禁転載

(この紙面は再生紙を使っています)

住所 / 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-15 TEL / 06-6879-5016

小児病棟の音楽会で子どもたちの相手をするボランティアたち



病院にとってボランティアはなくてはならない存在になっていきました。阪大病院でも約70人のボランティアが、病院職員の手が届かない病棟での食事時の手助けや、外来での案内などで活躍しています。病院ボランティアは病院の潤滑油であるとともに、患者さまの

心と和ませる存在でもあります。色とりどりの紙テープなどで可愛く飾られた小児病棟のプレイルームから、9月のある日、音楽と子どもたちの楽しそうな声が聞こえました。小児病棟のボランティアが企画した音楽会でした。リーダー格の豊島千鶴さんら3人

のボランティアがおそろいのエプロンをかけ、腕章をして子どもたちの相手をしました。ベッドに寝たままだ子どもも点滴のチューブをつけた子どもも音楽に楽しそうに聴き入りました。豊島さんらが子どもたちに「一緒に歌いましょう」「音楽に合わせて体を動かそう」と

と声をかけ、動きにくい子どもの体を支えて、できるだけ楽しめるように工夫していました。小児病棟には12人のボランティアがあり、週2、3回、2、3人ずつが病棟を訪れて子どもとの遊び相手をしています。特別企画として、びじくり箱などの工作、夏祭りやクリスマス会、

こどもの日のイベントなどもあります。豊島さんは、小児病棟の子どもたちは、外の世界に触れる機会が少ないので、できるだけ健康な子どもたちと同じ体験をしてもらいたい、子どもたちから笑顔で『ありがとう』、また来てね』と言ってもらえると、よかったです。と話しています。

阪大病院に登録しているボランティアは約250人で、そのうち実際に活動しているのは約70人です。高校生から80歳のお年寄りまでいます。大学生や元

高校教諭、元JR職員や美容師として働いている人など職種はさまざまです。女性が多く登録しています。ボランティアの仕事は、玄関フロアでは、字の書けない人の診療申込書の代筆、診療科までの案内、親が診療を受けている間の子ども世話をすることもあります。病棟では、配膳の手伝い、食卓の片付け、目の不自由な患者さまの電話の介助、外来や検査室へ行くときの介助、買い物の代行や洗濯物の片付けなどもします。

要のボランティア70人 買い物や食事介助 心なごむ音楽会も

阪大病院の先端医療を担うだけでなく、世界に通用する画期的な治療法を開発する未来医療センターが、将来的に新しい治療法となる可能性のある研究プロジェクトの一般公募をいよいよ始めます。また、施設整備も着々と進み、来春以降の本格稼働に向けて期待が高まっています。未来医療センターは今年4月に設置されました。阪大医学部で研究されてきた将来的に臨床応用できる可能性のある新しい治療法の基礎的研究を進められ、遺伝子治療のように臨床試験がすぐに行われているプロジェクトもありです。

新治療法開発担う 未来医療センター

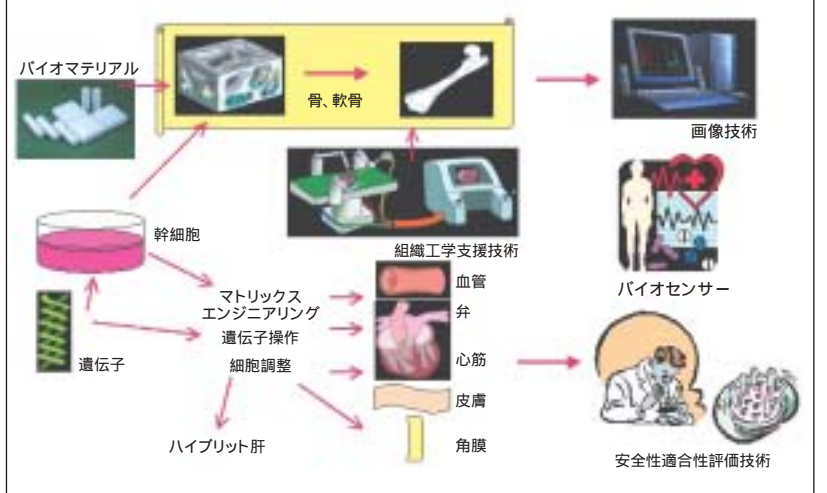
センターでは、このようなプロジェクトをトランスレーションリサーチと呼んでいます。新しい治療法について、新薬の開発や、治療の臨床試験をセンターが中心になって行うとしているのです。そのために、阪大病院だけでなく、医学部をはじめ、学内の他学部、他研究施設をはじめ、他大学、企業とも共同で、世界中の患者さまに福音をもたらす

ような治療法をより多く開発するために、研究プロジェクトの一般公募を始めます。公募の対象となるプロジェクトとしては、世界に先駆けた新しい医療の開発を目指すものが中心です。そのために、基礎的な研究は、動物実験レベルで効果が証明され、また安全性も十分確認されていることが条件になります。また、大阪大学医学部の医学倫理委員

会にも承認されるような倫理的な基準を満たしていなければなりません。そして、プロジェクトの費用は申請者の負担となりますが、資金援助に関しては、文部科学省の科学研究費などの助成や産学連携室を中心とした企業からの共同研究を受けられるようにセンターがバックアップします。

では、現在どのようなプロジェクトが進められているのかを具体的に説明しましょう。すでに、このコースで紹介したこともあり、まず足の動脈が閉塞した患者さまへの血管を新生させるためのHGF遺伝子による治療が、より多くの患者さまの治療に役立つように、さらに研究が続けられています。また、同じ遺伝子を利用して、狭心症の原因となる詰まった心臓

未来医療 (組織再生治療)



血管や心臓だけでなく、すでに実用化されている分野もありです。骨や皮膚です。皮膚も患者さまの皮膚細胞から、皮膚を作れるようになり、骨も同様で作られ、臨床応用されています。角膜移植はドナーが少ないために移植を待っている人がたくさんいますが、口の中の粘膜上皮を角膜にする研究や、角膜の幹細胞から人工角膜を作る研究も進められています。いろいろな組織や臓器になる可能性のある幹細胞という細胞を利用した再生医学や、ロボットを使った治療法もセンターの大きなプロジェクトです。このように、センターが開発されつつある治療法は、世界の先端医療を推進するものと期待されています。

研究プロジェクトを一般公募

他大学、企業と連携 研究費助成バックアップ

冠動脈のバイパスを作るという研究や、患者さまの心臓の細胞を培養し、治療用の遺伝子を組み込んで、再び移植して、元気な心臓に蘇らせる研究もすでに動物実験を終えています。また、これまで国産ではなかった心臓の弁を、ブタの心臓弁の骨

格だけを残して、その骨格に患者さまの細胞を移植、増殖させ、拒絶反応のない人工弁を開発する研究も有力企業と共同で行っています。

血管や心臓だけでなく、すでに実用化されている分野もありです。骨や皮膚です。皮膚も患者さまの皮膚細胞から、皮膚を作れるようになり、骨も同様で作られ、臨床応用されています。

角膜移植はドナーが少ないために移植を待っている人がたくさんいますが、口の中の粘膜上皮を角膜にする研究や、角膜の幹細胞から人工角膜を作る研究も進められています。

病院ボランティア国際フォーラム開催

札幌市で9月12日から3日間、第1回病院ボランティア国際フォーラムが開かれました。世界各国の病院ボランティアら550人が参加。阪大病院からは玄関ロビー、病棟などで活動していただいているボランティアグループ「ふれ愛」の代表3人と病院の担当者1人が参加しました。

海外の現状や課題などについての基調講演、ビデオセッションや4つの分科会での事例発表と意見交換、分科会報告を受けての全体会議が行われました。

ボランティア側からは病院と一体化したボランティア活動、各機関とのネットワーク、それを支える組織づくりとその充実の必要性が報告されました。

ボランティアの知恵と行動力が本院にとって医療の質を向上させる資源、資本となることを理解し、その活動を側面から支援していく体制の整備が今後の課題です。

床頭台の入れ替え完了

患者さまや医師、看護師らの安全性、アメニティなどを考え、9月上旬までに一般病棟すべての床頭台 = 写真 = をテレビ、冷蔵庫、保管庫の付いた新しいタイプに入れ替えました。

これまでの床頭台は、テレビが固定されておらず、落下事故の可能性があります。引き出しにも鍵が付いておらず、財布など貴重品の盗難も多く発生。冷蔵庫は共同利用のため異物混入の恐れもありました。



(財)恵済団のご支援で、新しい床頭台を導入し、これらの問題を解消しました。入れ替えの際、ご協力いただいた入院患者さまに、厚くお礼申し上げます。

プロジェクトXに特殊救急部が登場

NHKの人気番組「プロジェクトX」の第93回に特殊救急部(現・高度救命救急センター)が取り上げられました。

「救命救急 ERの誕生～日本初 衝撃の最前線～」というタイトルで、今年7月23日に放映されました。

特殊救急部は全国では初めて、救急の重症患者を治療する部門として、大阪府の要請にこたえ、1967年に大阪市福島区の旧阪大病院内に誕生しました。

番組では、初代部長の杉本侃(つよし)さん(現・名誉教授)が資料映像などをもとに当時を振り返り、第1号患者が暴力団抗争での重傷者だったことをはじめ、さまざまなエピソードを披露。

そして、「多発外傷」という重症者をいかに治療するか、苦闘の歴史が、血の海となる処置室、怒号が飛び交うなかでの治療など迫真の映像を交えて、描かれました。

質問箱

Q 病院内でたばこののいのすることがあるのですが、院内は全面禁煙ではないのですか？

A 病院内は全面的に禁煙にしております。ただし、一階の郵便局の近くに、どうしてもたばこを吸いたいという人のために「喫煙コーナー」を設けています。外来受付の玄関近くにも喫煙コーナーがあったのですが、病院内で、健康に悪いたばこをできるだけ吸わない方がいいと、昨年10月に廃止しました。ご質問に関してですが、全面禁煙とはいつても、人目につかない場所で喫煙している人を見かけることがあります。そのたばこのにおいが病棟の廊下などへ流れていき、患者さまに不快な思いをさせたのではないのでしょうか。

病院としては、院内でそのような状況を見つけたときには、厳重に注意をしています。患者さまも、喫煙者を見つられたときには遠慮なく注意してください。

また、患者さまだけでなく、お見舞いの方も禁煙にご協力していただくようお願いいたします。



患者さまの手術直後の体液を管理

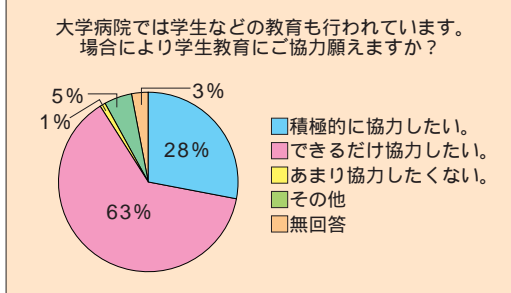
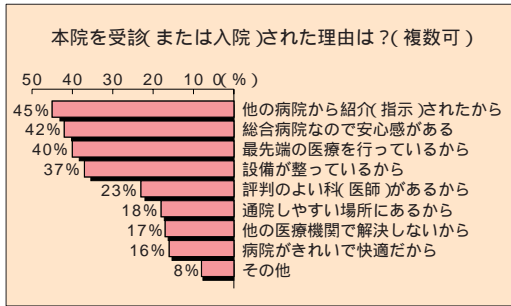
取り組んでいます。まだそれほど一般的ではありません。日常的に行われているのは、狭心症患者さまに對する心拍動下冠動脈バイパス手術です。

人工心肺装置を使わず、また心臓も止めないでバイパスを作るものです。Ocump バイパスといわれ、大きな手術の代名詞であった心臓外科手術を一新さ



部分的に圧迫固定し血管吻合を行う

患者さまアンケート



阪大病院の先端医療に期待する患者さまアンケート

全国42国立大学病院中15の国立大学病院で5月に行われた、患者さまアンケートの「阪大病院への期待」をテーマに紹介いたします。阪大病院に先端医療を期待されている患者さまが多いことがうかがえます。また、学生の医学教育にも協力的であることがわかりました。

血液浄化部

阪大病院の血液浄化部は昨年4月から、中央診療部門として本格的に稼働を始めました。治療法の特長から、

血液透析や体液管理をきめ細かく行っています。また、重症の内科疾患や大がかりな外科手術後の患者さまは、急性腎不全が低下する

体外管理の専門家である腎臓内科のスタッフの手で運営されています。血液浄化部は急性腎不全・慢性腎不全の患者さまの血液透析が業務の中心です。市中のクリニックとは違い、腎臓移植の適応となった維持透析中の患者さまや、各種外科手術が必要となった維持透析中の患者さまの血液透析が中心です。手術が滞りなく行われ、術後の合併症が生じることのないよう、術前後の血液透析や体液管理をきめ細かく行っています。

阪大病院の心臓血管外科で心臓移植が実現したのは、医学部旧第一外科教室が長年にわたって築いてきた伝統があったからです。心臓移植は法制定後、わが国で14例になります。阪大病院では6例を実施しています。移植だけでなく、心臓血管外科は一般の手術においても、患者さまに負担をかけない最先端の低侵襲手術にも取り組んでいます。ひとつはロボット支援手術で、比較的手術操作の容易な手術から

先端医療に不可欠 手術直後の体液を管理

心臓血管外科

冠動脈のバイパス手術 心臓止めず負担軽く

せるものといえます。冠動脈のバイパスをつける血管周辺を局所

的に特殊な装置で固定し、一時的に血液の流れを止め、縫い合わせます。麻酔法や吻合技術の進歩で、安全性や吻合成績も著しく向上してきました。

阪大病院では小型の遠心ポンプで右室側だけ血液をバイパスさせて、心臓の働きを助ける方法を導入しました。人工心肺を使わない

「Ocump」バイパスの考えを拡大したもので、難しい吻合も安定した状態で実施できるようになりました。

阪大病院ではこれまでこの低侵襲手術を150例ほど行っています。入院期間短縮が目標ですので、クリティカルパスを導入し、術後1週間程度で退院できるように計画しています。

また、吹田市の委嘱を受け、薬剤師会は介護に関するあらゆる相談を受けております。医薬分業のメリットを生かすためにも、お住まいの近くにかかりつけ薬局を持たれて、なんでも気軽に相談ください。

特徴は、術後の回復が早く、入院期間が短縮されたことです。患者さまにとって本当の意味で優しい手術といえるでしょう。

しかし機能の低下した心臓や心臓の裏側の血管を吻合するには心臓を動かさなければならず、血圧が下がるなどの欠点がありました。

吹田市の薬剤師会 会長 大森 洋子

健康をトータルサポート

吹田市の薬剤師会 会長 大森 洋子

阪大病院の患者さまは遠くから来られますが、吹田市薬剤師会の保険薬局で約18%の院外処方箋をお受けしております。

吹田市の薬剤師会 会長 大森 洋子

健康をトータルサポート

吹田市の薬剤師会 会長 大森 洋子

吹田市の薬剤師会 会長 大森 洋子

い薬に関する情報を提供できるように定期的に薬剤師会として研修会を開いています。

退院後、在宅で療養される高齢者の方が増えており、往診のドクターの指示によって、患者さまの飲みやすいように錠剤を散剤(粉薬)にしたり、服用する薬を一包化したりして、ご自宅までお届けするサービスも行っています。

吹田市の薬剤師会 会長 大森 洋子

健康をトータルサポート

吹田市の薬剤師会 会長 大森 洋子



吹田市の薬剤師会 会長 大森 洋子

吹田市の薬剤師会 会長 大森 洋子